

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：株式会社 マスネットワーク	所在地：長野県松本市巾上 9-9
評価実施期間：平成 30 年 7 月 1 日～平成 31 年 3 月 4 日	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 060802 060672 060972 050231	

2 福祉サービス事業者情報（平成 31 年 2 月現在）

事業所名：長野市芋井保育園 (施設名)	種別：保育所
代表者氏名： 理事長 寺田裕明 (管理者氏名) 園長 中澤せつ子	定員（利用人数）： 13 名
設置主体：長野市 経営主体：社会福祉法人 長野市社会事業協会	開設（指定）年月日： 昭和 59 年 4 月 1 日
所在地：〒380-0885 長野市大字桜 599	
電話番号：026-232-8120	FAX 番号：026-232-8120
ホームページアドレス：nsjk-jimukyoku@syajikyo.or.jp	
職員数	常勤職員：6 名 非常勤職員 名
専門職員	(専門職の名称 名)
	保育士 4 名
施設・設備 の概要	(居室数)
	保育室 3 部屋
	(設備等) ルームエアコン 3 台

3 理念・基本方針

理念： ・子どもの健やかな心身の発達を図り、人として生きる力の基礎を培う。
基本方針： ・安全、安心、一貫性のある安定した保育のもと、子どもが十分自己発揮できるようにします。 ・養護と教育を一体的に行い、子どもの発達を援助します。 ・家庭はもとより小学校、地域等の関係機関との連携を図りながら、子育ての悩みや相談に応じ、助言するなど信頼関係を築きながら地域の子育て支援の拠点として社会的役割を果たします。

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

・園開放（おひさま広場）：地域の未就園児のご家庭にチラシを配布し、実施をしている。 ・未就園児の保護者に一時預かり利用を説明し、一時預かりを実施している。 ・未就園児の集まる会に出向き、関わったり悩み、相談に応じている。 ・事業所の障がいのある子ども達との交流を行っている。 ・地域のお年寄りと触れ合う場に出向き交流を行っている。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回初受審
---------------	-------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む）

◇特に良いと思う点

① 食育の取組

散歩で摘んだヨモギをおやつづくりに発展させる、夏野菜を育て給食に提供する、祖父母参加に祖父母と一緒に大根の種まきを行い、収穫をして越冬野菜の保存法を地域に習って土の中に貯蔵して給食に提供している。また、おやつや弁当づくりの経験をする等して子どもが主体的に“食”に関わる取組を行っている。

子どもたちは、毎月「食育の日」に調理員から食について話を聞いて、様々な食材を見て理解する機会を作っている。食事前に調理員は、給食に使われている個々の食材について色別にホワイトボードで確認して子どもたちに意識付けをしている。

職員は、職場内研修で子どもたちが“食”への興味を持ち、意欲的に食べられるようになることを目的に、子どもの育ちを捉えて、食事マナー、保育者の配慮ポイント等を事例検討を交えて行っている。健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向けて、その基礎を培うことを目標に五領域と相互に作用させながら食育を推進している。

②利用者満足の上への取組

子ども、保護者の満足向上へ全職員で取り組んでいる保育所である。

3歳未満児の子どもに対しては、ふれあいを大切に、精神的に満足感が得られるように日々の保育に取り組んでいる。3歳以上の子どもは送迎バスが利用できるため、日常の連絡は連絡ノートやお便り、電話等で保護者へ丁寧に報告している。入園式、卒園式での全体での保護者会には、保育所で実施した保護者へのアンケートの結果をお伝えし、理解を深めていただくように取り組んでいる。また、職員が子ども一人ひとりを理解し、子どもの性格や好き嫌い、発達状況、家庭環境、お友だちとの関わりも把握して丁寧に対応している様子が今回の保護者への利用者調査からも推察される。子育て、子どもへの対応に悩む保護者に対して、話をお聞きして助言し、子どもと共に成長している姿をお伝えして、意見を交換し、家庭と協力して子育てを担い、保護者との信頼関係の構築に繋げている。保護者から寄せられる様々な意見、要望にも迅速な対応に努めている。

◇特に改善する必要があると思う点

①様式の見直しや記録の工夫

施設として必要な帳票は、法人としてリスク面、研修面、計画等、統一した書類が適切に準備されている。しかし、施設運営の中でさらに必要な情報を効果的に利用する記録の工夫が望まれる。

当保育所は、子ども数が減少し施設としての経営課題とはなっているが、保育士は子どもの成長の様子が見えやすく、保育所としての質の改善に向けた取り組みが日々の職員間での会話の中で共有しやすい状況である。反面、記録や子どもの計画などへの修正などが不足しやすい点が見受けられる。課題に対し、計画、実施、評価という流れの中で記録などにより理論的に振り返りなどもできる体制づくりが望まれる。

さらに、日々実施していることが口頭で伝えられ、記録に残らず進行していることから具体的な評価・分析につながらず、次回に向けての目標があいまいになりやすいように思われる。

そのため、記録様式の工夫などにより計画実施、評価の見直しにつながる記録や様式の工夫が望まれる。

② リスクマネジメントの取組

法人としてリスクマネジメントの体制が構築され、研修なども実施されている。事故発生時の対応、手順等が事務室の見やすい場所に掲示されている。施設内研修として、教室内の椅子や机の位置を安全の観点から見直し気づきを促すような取り組みもされている。行事前の計画や事後の反省などでも、安全に対する気づきや改善点を職員会で検討し、記録もされている。日常的にも、子どもの行動から気づいた時、迅速に職員内で話し合い、すぐに改善に取り組み、職員に周知されている。子どもの怪我で受診を要したものなどは事故報告書が作成され、職員会での検討や改善策の周知もされている。しかしながら、ヒヤリハット報告書または日誌等に記録としてまとめられていない点は改善が必要である。また、送迎バスに関するマニュアルの作成も求められる。さらに、保育環境マニュアル、環境チェック表が活用されていない点は、リスクマネジメント体制が構築されているが、実施状況や実効性についての評価、見直しが求められる。

② 利用者確保に向けて

芋井地域は、市街地からも距離的には遠くないが、高齢化が進み子どもの減少の問題は地域全体でも検討されている。保育所では、未満児や未就園児に対する園開放や一時預かり、子育て相談等を実施し、また、地域の保健師等とも連携して未就学児の動向を把握し、手厚く子育て支援に取り組んでいる。また、恵まれた自然環境、異年齢の関わり、世代間交流、食育、少人数だからこそその環境を理解して、地区外からの入所児も在籍している。今年度、パンフレットを新規作成し、利用者や地域等への説明に活用が期待されている。この地域は、特別利用保育(中山間地に限る)が認められている。3歳以上児はバスでの送迎を実施しているが、送迎区域が限られており、利用者確保には繋がっていない。

市内では、3歳未満児の入所希望者が増加しているが、当保育所では指定管理者運営という点と地理的環境で入所者確保に苦戦している。しかし、保育所選択に際しては、大学、公共機関等からも近くこの豊かな自然環境に着目する保護者も一定数は見込め、地区外の保護者への周知が課題である。信州型自然保育の認定を受けている保育所も近隣に複数あり、認定により、新規の入所希望者への周知や認知度の高まり、さらに利用者の確保が期待される。また、子どもの姿は地域活性化の観点からも欠かせない存在であり、地域の方との取り組み、自治体との連携も重要な課題であり、さらなる改善を期待したいものである。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目(別添1)

内容評価項目(別添2)

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合(別添3-1)

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添4）

平成31年3月12日 記載

- ・今回第三者評価を受審して課題が見えたことは、今後の保育をしていくうえで良い勉強、経験になりました。
- ・子どもの人数が少なく、職員数も少ないため、職員同士のコミュニケーションがとり易く、口頭で伝えることが多く、記録し振り返りさらに実施することの大切さを実感しました。
- ・必要なマニュアルが作成してなくマニュアルの必要性を痛感した。
- ・保育環境マニュアル、環境チェック表が作成してあるが活用しなかったため、今後活用したい。
- ・パンフレットを活用し、自治体、地域への情報提供を強化し地域の方との取り組みを検討していきたい。